

科目名	ネットワークⅢB										
科目名(英)											
単位数	10単位		時間数		150時間		担当者		久保山 大地・高倉 美哉		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年										
授業概要	セキュリティ、ワイヤレス、ネットワーク自動化などの企業ネットワークに必要とされる機能を学習して 企業ネットワーク全般の構築と運用ができるようになる										
	iCDタスクコード		DV04.4.1								
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				企業ネットワークで必要とされる機能を説明できる。					
	○	○	○			企業ネットワークの構築ができる。					
	○	○	○			企業ネットワークの運用ができる。					
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社) 1冊ですべてわかるネットワーク運用・保守の基本(SB Creative)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-3	LAN設計モデル					サブネット化の方法を復習すること				
	4-4	ネットワーク管理の全体像									
	5-6	WAN									
	7-7	[運用]構成管理、性能管理									
	8-12	VPN					セキュリティの基本的な事項について復習すること				
	13-13	[運用]ネットワークの運用管理									
	14-15	ネットワークセキュリティの概要									
	16-16	[運用]ネットワーク運用監視									
	17-20	ネットワークデバイスの保護									
	21-21	[運用]ネットワーク監視装置									
	22-26	スイッチドネットワークでの脅威とセキュリティ機能					スイッチで用いるプロトコルを復習すること				
	27-27	[運用]メンテナンス用ネットワーク									
	28-29	ネットワーク認証									
	30-31	ネットワーク認可									
	32-33	ネットワークのアカウントティング									
	34-34	[運用]ネットワーク障害対応									
	35-37	ワイヤレスネットワークの基礎									
	38-38	[運用]ネットワーク装置のバックアップ									
	39-43	ワイヤレスLANのアーキテクチャ									
	44-46	ワイヤレスLANのセキュリティ									
	47-49	ワイヤレスLANの構築と運用									
	50-50	[運用]パケットキャプチャー									
	51-52	SDNの概要									
	53-55	CiscoのSDNソリューション									
	56-63	ネットワーク構築演習 LAN									
	64-69	ネットワーク構築演習 セキュリティ									
	70-75	ネットワーク構築演習 総合									

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを10回実施する。 (3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(筆記)	○	◎			30%
	確認テスト		◎			20%
	課題		◎	○		30%
	受講状況				◎	20%
履修上の注意						

科目名	サーバー仮想化演習							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	久保山 大地	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻 3年、情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻 3年、情報システム専攻科 ネットワークエンジニア専攻 アドバンスコース 2年、情報システム科ネットワーク専攻 アドバンスコース 2年							
授業概要	ネットワーク、サーバーを取り巻く技術の中でも仮想化技術の重要性は日々増している。仮想化技術の種別、メリット、仕組みを理解し、各仮想化技術を構築、運用するスキルの習得を目指す。							
	iCDタスクコード		DV04.7.1、DV04.7.1					
授業形態	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				仮想化技術の基本用語を説明できる		
	○	○				Dockerによるコンテナの基本操作が行える		
	○	○				Kubernetesによるコンテナの基本操作が行える		
テキスト・教材 参考図書	図解即戦力 仮想化&コンテナがこれ1冊でしっかりわかる教科							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	01-02	仮想化とは、仮想化の種別、仮想化のメリットとデメリット、仮想化とクラウド						
	03-04	クラウドのセキュリティ、サーバー仮想化のしくみ、ホストOS型仮想化、ハイパーバイザ型仮想化						
	05-06	コンテナ型仮想化、クラウドのサーバー仮想化、ネットワーク仮想化のしくみ、VLAN						
	07-08	オーバーレイネットワーク、VPN、SDN、NFV						
	09-10	SD-WAN、クラウドのネットワーク仮想化、コンテナ技術の歴史、コンテナ技術のメリット						
	11-12	DevOpsとコンテナ技術、主要なコンテナ技術、マイクロサービス、コンテナとサーバーレスの比較						
	13-14	Dockerとは、Dockerが注目される理由、Dockerコンテナ、コンテナイメージ						
	15-16	コンテナのライフサイクル、Dockerデーモン、コンテナとプロセス、名前空間						
	17-18	差分管理、Swarm mode、主要なDockerコマンド、Docker Hub						
	19-20	コンテナオーケストレーション、Kubernetesとは、ポッド、デプロイメントコントローラ						
	21-22	サービス、flannel、負荷分散と死活監視、スケーリング						
	23-24	主要なKubernetesコマンド、自動ビルド、マルチクラウド、Kubernetesのアーキテクチャ						
	25-26	クラウドのコンテナ技術対応状況、Amazon ECS、Amazon EKS、AWS Fargate						
	27-28	GKE、Cloud Run、AKS、ACI、Docker Enterprise						
	29-30	総復習						
	評価方法	(1)受講状況を評価する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業内評価テストを実施し評価する。(4)定期試験(筆記)を実施し評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
受講状況					◎		20%	
課題		○	◎				20%	
授業内評価テスト		◎	○				30%	
定期試験(筆記)		○	◎				30%	
履修上の注意	なし							

科目名	クラウド演習											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		久保山 大地			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年											
授業概要	AWS クラウドのベストプラクティスを学習し、AWS で最適な IT ソリューションを設計するプロセスを検討するのに役立つさまざまな設計パターンを身につける。											
	iCDタスクコード		DV04.2.1、DV04.3.1、DV04.3.2、DV04.4.1、DV04.7.1、DV04.7.2、DV04.8.1、DV04.8.2、DV04.9.1、DV04.9.2、DV04.11.1									
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				ベストプラクティスに基づいてサービスの選択が行える。						
	○	○				拡張性、信頼性、可用性が高いインフラストラクチャを構築できる。						
	○	○				マイクロサービスとサーバーレスアーキテクチャに関する用語を説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	Academy Cloud Architecting(AWS アカデミー コンテンツ)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-3	モジュール 1 : クラウドアーキテクチャ設計の導入										
	4-6	モジュール 2 : クラウドアーキテクチャの紹介										
	7-9	モジュール 3 : ストレージレイヤの追加										
	10-12	モジュール 4 : コンピュトレイヤの追加										
	13-15	モジュール 5 : データベース層の追加										
	16-18	モジュール 6 : ネットワーク環境の作成										
	19-21	モジュール 7 : ネットワークの接続										
	22-24	モジュール 8 : ユーザーおよびアプリケーションアクセスの保護										
	25-27	モジュール 9 : 伸縮自在性、高可用性、監視の実装										
	28-30	モジュール 10 : アーキテクチャの自動化					確認テストを全て80点以上にすること。ガイド付きラボを全て完了すること。					
評価方法	(1)課題・レポートをモジュール毎に実施 (2)受講状況 (3)定期試験(筆記) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	課題・レポート		○		◎						30%	
	受講状況						◎				20%	
	定期試験(筆記)				◎						50%	
履修上の注意												

科目名	ネットワーク・サーバー構築総合演習						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	久保山 大地
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年、情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年						
授業概要	ネットワーク、サーバー、クラウドに関する知識を組み合わせ、3層アーキテクチャによるWEBアプリケーションのシステムを構築することで総合的な技術力を身につける。						
	iCDタスクコード		DV04.2.1、DV04.7.1、DV04.8.1、DV08.5.3				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				指定した要件を基にシステムを設計できる	
		○		○		必要な技術を調査し、実装することができる	
		○		○		動作確認を行い、不具合があれば修正できる	
				○		グループにおける役割を適切に担い、情報共有を欠かさず、グループ活動を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2-4	ログイン画面作成(LAMP構成サンプル)				ログイン画面を完成させること。	
	5	ログイン画面レビュー					
	6-7	要件提示、システム構成図作成				システム構成図を完成させること。	
	8	システム構成図レビュー					
	9-24	システム開発				システムを完成させること。	
	25	システムレビュー1					
	26-29	システム冗長化				システム冗長化を完成させること。	
	30	システムレビュー2					
評価方法	(1)受講状況を評価する。(2)成果物を評価する。(3)レビューを実施し評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講状況				◎		20%
	成果物		◎		○		40%
	レビュー		○	○	◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	久保山 大地
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年						
授業概要	就職活動の準備としてIT業界の研究、自己分析、履歴書作成、面接練習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IT業界の職種について説明ができる。	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎					IT業界について調査する
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界					IT分野の業種について調査する
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは					社会人基礎力について調査する
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う					就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う					5年後、10年後の自分の姿を予想する
	8	履歴書作成① 自己PR					自己PRを完成させる
	9	履歴書作成② 業界志望理由					業界志望理由を完成させる
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項					履歴書を完成させる
	11	面接練習① 入退室の所作					
	12	面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	面接練習④ 学生時代に力を入れたこと					
	15	企業説明会・入社試験時のマナー					
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)面接状況(動作、受け答え)を評価する。 (3)業界セミナー、就活セミナーのレポートを提出する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	面接状況	○	◎	◎	◎		30%
	レポート提出		○		◎		20%
	受講状況			◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅢB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	木村 浩昌	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③ 漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7) 及び SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	15	SPI数学分野の小テスト 及び SPI国語分野の復習、定期試験対策					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				55%
	小テスト	◎	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	技術英語／技術文書							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	北島 仁宇	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年							
授業概要	・ITエンジニア向けの英語ドキュメントを読む際に必要な、基礎的なリーディングの知識とテクニックを習得する。 ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的に裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形態	講義：○		演習：△		実習：		実技：※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				ITエンジニア向け英語ドキュメントの特徴をつかんで、内容を説明することができる。		
	○					ITエンジニア向け英単語の意味を理解し、使用することができる		
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書を書けるようになる		
		○				伝わる作業手順書、障害報告書、社外メールを書くことができる		
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト書きこみノート 文法編(学研教育出版) 技術者のためのテクニカルライティング入門講座(翔泳社)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	英語：英語の基本になるパーツ―品詞(名詞；代名詞 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	2	英語：英語の基本になるパーツ―品詞(名詞；代名詞 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	3	英語：パーツの並べ方―文(単語の役割と文；文の種類 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	4	英語：パーツの並べ方―文(単語の役割と文；文の種類 ほか)					中間テストの準備をしておくこと	
	5	中間テスト/英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	6	英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					確認テストの準備をしておくこと	
	7	英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					定期試験の準備をしておくこと	
	8	文書：第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識						
	9	文書：第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					授業内容に係るレポート作成および提出	
	10	文書：第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック						
	11	文書：第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					授業内容に係るレポート作成および提出	
	12	文書：第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取扱説明書(作業手順書)						
	13	文書：第6章 実践編 提案書					授業内容に係るレポート作成および提出	
	14	文書：第7章 実践編 障害報告書						
	15	文書：第8章 実践編 社外メール文					授業内容に係るレポート作成および提出	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)単元毎に課題・レポートを実施する。 (3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				50%	
	課題・レポート	○	○				40%	
	受講状況				○		10%	
履修上の注意								

科目名	Webアプリケーション演習B											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		北島 仁宇			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・ 情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年											
授業概要	PHP言語を活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。演習を通じて動作確認しながらWebアプリケーションの仕組みを理解する。また、適宜追加の演習問題を実施して、知識の定着を図る。											
	iCDタスクコード		DV08.5.3									
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる						
		○				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる						
		○				実用的なWebアプリケーションの開発ができるようになる						
テキスト・教材 参考図書	基礎からのPHP(ソフトバンク クリエイティブ(株))											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	CHAPTER11 phpMyAdminによるMySQL操作の基本										
	2	CHAPTER12 SQL文の基本					環境の構築を完了させること					
	3-4	CHAPTER13 PHPでMySQLを利用する										
	5-8	CHAPTER14 PHPのクラス					演習課題を終了させること					
	9-10	CHAPTER15 電子メールの送信					演習課題を終了させること					
	11-12	CHAPTER16 ファイルとディレクトリの操作										
	13-15	CHAPTER17 グラフィックの簡単な利用					演習課題を終了させること					
	16-18	CHAPTER18 Cookieを使おう					演習課題を終了させること					
	19-20	CHAPTER19 セッションって何？					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	21-22	CHAPTER20 Webアプリケーションに対する攻撃を知ろう					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	23-24	CHAPTER21 簡易画像掲示板を作ってみよう										
	25-27	CHAPTER22 画像掲示板を完成しよう					演習課題を終了させること					
	28-30	総合演習										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)各内容での演習課題を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								50%
	課題演習	○		◎				○				40%
	受講状況							◎				10%
履修上の注意	・WEBアプリケーション演習Aを履修している、または同等の知識を有すること ・USBメモリを持参すること											

科目名	情報処理試験対策秋対策B											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		20時間		担当者		川野 啓祐			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科3年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1～5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
	6～10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								55%
	課題・レポート	○		◎								25%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意	再試験は実施しない											

科目名	情報処理試験対策春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	24時間	担当者	川野 啓祐	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	7～12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				55%
	課題・レポート	○	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							